



新たな地平が開かれる祝福の時。 輝く未来へ、 探求の道程はこれからも…。 卒業おめでとう!

名古屋学院報

名古屋学院報 第150号
2018年(平成30年)
2月26日発行

発行
名古屋学院
名古屋中学校
名古屋高等学校
名古屋市中区砂田橋
2丁目1番58号
TEL 052-721-5271
http://www.meigaku.ac.jp/

主題 聖句
「あなたの神である主を愛しなさい。
隣人を自分のように愛しなさい。」
マタイによる福音書 第22章37節~39節

Goodbye Yellow Brick Road

“Oh, I've finally decided my future lies beyond the yellow brick road.”

「ぼくはやっと決心が付いた。ぼくの未来はこの黄色い煉瓦通りのはるか向こうに広がっているんだ。」



校長
森田祐二

これは英国のミュージシャン、エルトン・ジョンが1973年に歌った「Goodbye Yellow Brick Road」という曲の歌詞です。「Yellow Brick Road」とは、映画「オズの魔法使い」でドロシーが出会った仲間とともに、希望をかなえるためにエメラルドシティに向かう、その時

に通って行く道でした。長久寺門から校舎へと続く黄色い煉瓦道を通じて、皆さんは名古屋中学校高等学校へたどり着きました。皆さんが6年間、3年間の間に学校で出会った多くの友人(Cowardly Lion, Scarecrow, Tin Man, Toto...)、また教師(the Wizard)さん、今日でお別れ、それぞれがYellow Brick Roadの向こうに広がる未来に歩みを進める時が来ました。

「オズの魔法使い」の中でthe Wizardは、全く自分に自信のなかったCowardly LionやScarecrowに「君に必要なものは自信だ。真実の勇氣とは、怖いと思っても危険に立ち向かい行動することだ。」「君は毎日何かを学んでいる。経験が知識をもたらすのだ。」と伝えます。

皆さんにとってのchallengeは、今後成長していくかということです。「他者のために」目的意識を持って、歩み続けなければなりません。皆さんには可能性があるだけでなく、責任があるのです。名古屋中高で獲得したスキルを大切に、グローバル化が進む世界で、すばやく様々な変化を社会の中でchallengeを続けてください。

私たちの生活をより自愛あふれるものにできるような勇氣を与えてください。そして卒業生の皆さんが、祝福ある未来を築ける勇氣を見つけてくれますように。卒業おめでとう。

「神に求めよ」

本学院を卒業する皆さんに、この聖書の御言葉を贈ります。「求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。」



学院長
小林 光

「求めよ」とは、神を信じている人です。神を信じる人は、神が私を愛してくださっておられることを知っている人です。自分が求めたものとは違うものを神が与えてくださる場合もあります。しかし、それが私にとって最善のものだからこそ、神はお与えになるのです。

「求める者は受け、探す者は見つけ、門をたたきなさい。」(マタイによる福音書 第7章7~8節)

現のためには、神さえも利用しようとするのです。神に求める人は、神を信じている人です。神を信じる人は、神が私を愛してくださっておられることを知っている人です。自分が求めたものとは違うものを神が与えてくださる場合もあります。しかし、それが私にとって最善のものだからこそ、神はお与えになるのです。

「求める者は受け、探す者は見つけ、門をたたきなさい。」(マタイによる福音書 第7章7~8節)

「地の塩、世の光」



中三学年主任
小澤直幸

「卒業おめでとう」のごいいます。神様に選ばれ、皆さんがこの名古屋学院に入学してから3年が過ぎようとしています。この3年間で皆さんは、様々な知識や知恵を得て、部

活動や行事から自分自身を鍛え、仲間と共に協力できる人間関係を学びました。そして「他者のために生きる」ということの意味を考え、実践してきたことと思います。

私たちを取り巻く社会は、情勢や人口構造の変化、人工知能を始めとする科学技術の発展などにより、この先どのような方向に向かっていくか想像が付きません。近いころでは、君たちが3年後に迎える、これからの世の中の変化に対応できるよう変革を迎えようとしています。そして世界にはまだまだ解決できない問題や困難が多くあり、多くの人が救いを求めています。

「あなた方は地の塩、世の光である」という聖書の一節は、よく知っている言葉であると思います。神様より与えられた一人ひとりの個性には、それぞれに活躍の場があるはず

です。こうした時代だからこそ、皆さんには様々な個性を共に認め合い、それぞれの力を関係性の中で何倍にも活かす「地の塩、世の光」の役割を担い、仲間と共に協力できる人間関係をさらに深めてほしいと願います。

義務教育を終えようとしている皆さんは、これから自分が何を学んでいくかを主体的に捉えていくべき時となりま

「自立せよ!」



高三学年主任
吉岡建二

いよいよ高校卒業です。この3年間は、義務教育を終え、無事高校に進学し、ほとんどの人が小学校中学校時代の延長と感じながら生活していたのではないかと思います。しかし、ここから先はどうでしょう

か。大学などの高等教育機関への進学後は、社会で通用するための専門知識を身に付けたら、これを機に親元を離れ、新しい環境での生活が始まる人もいるでしょう。そしてその数年後には確実に20歳を迎えます。つまりこれからの時間は皆さんにとって子供から大人への過渡期と重なるのです。それに伴い一人暮らしや寮生活を通して自分で判断しなければならぬことが一気に増えていきます。もちろん自宅暮らしでも周りの影響を受けて精神的に成長していく必要があります。高校時代以上に、将来を意識して自ら積極的に勉強を始める人もいます。

我々は皆さんがイメージする未来を共に描き、時には導いていこうと迫り着きました。そんな皆さんがここを巣立ち、これからどこまで成長していくのが楽しみで仕方ありません。自分の原点である母校がいつでもここにあります。見栄も遠慮もありません。充電したい時、原点を確認したい時、心新たにしたい時……、いつでも遊びに来て下さい。卒業おめでとう!

はありません。この間違いなく起こりうるだろう変化をどれだけの人がちゃんと自覚しているのでしょうか。だからこそこのタイミングでも、もう社会人としての心構えを備えておくべきなのです。学生時代に少しでも早く自らを大人扱いすることは、本格的に社会に飛び出す前に徐々に気持ち切り替えていけるという非常に恵まれた環境なのです。

我々は皆さんがイメージする未来を共に描き、時には導いていこうと迫り着きました。そんな皆さんがここを巣立ち、これからどこまで成長していくのが楽しみで仕方ありません。自分の原点である母校がいつでもここにあります。見栄も遠慮もありません。充電したい時、原点を確認したい時、心新たにしたい時……、いつでも遊びに来て下さい。卒業おめでとう!

高3卒業式表彰生徒

- ▽愛知県知事賞
▽佐藤匡紀
▽名古屋市長賞
▽吉水純弥
▽日本私立中学高等学校連合会会長賞
▽山口直敬
▽愛知県私立協会の会長賞
▽名古屋学院理事長賞
▽名古屋学院敬愛同窓会長賞
▽名古屋中学校・高等学校PTA会長賞
▽高浜健志
▽学業成績優秀賞
A 山本大誠 B 濱口文人
C 河合健一郎 D 皆川和輝
E 市野雅大 F 田上海斗
G 鈴木幹也 H 長瀬弘明
I 鈴木聡馬 J 伊藤大世
K 冨田悠太 L 磯村俊介
M 山本真輝 N 佐名拓磨
▽学習努力賞
A 渥美慶太 B 山田祐太
C 野田瑛一 D 藤枝岳矢
E 日野祐哉 F 水上真智
D 向 学 E 山口宗磨
E 石川智理 F 山田真之亮
F 界 直希 G 二村祥史
G 建部礼人 H 廣瀬愛己
H 大柳竜一 I 土屋悠人
I 伏見賢紀 J 堀田大介
J 伊藤靖敏 K 河野涼哉
K 白井秀弥 L 立松丈豊
L 中島 哲 M 渡辺 純
M 石井大貴 N 酒井慧弥
N 柴田哲秀 O 山岸孝之
▽課外活動優秀賞
水泳部
L 鶴田宙也 M 奥村拓真
ラグビー部
A 三浦啓由 F 橋本和磨
G 谷川 司
文学部
D 北口直敬
▽課外活動奨励賞
馬術部
G 岡田 誠
陸上競技部
F 城戸宏規 J 梅谷将成
L 飯田英夫 L 彦坂拓哉
テニスコ部
D 中尾優作 M 三上和馬
水泳部
K 石橋由也 K 加藤鳳人
N 日下部 航

- ソフトボール部
A 上田憲伸 B 杉山惣市郎
B 矢野壯哉 E 市野雅大
G 吉川知宏 F 伊藤優汰
漫画研究会
A 加藤温輝 L 堀田泰斗
B 藤原篤史 D 竹中俊介
E 水谷彰良
文学部
A 波多野俊介 D 竹中俊介
D 横山栄介 G 建部礼人
G 瀬戸雅裕
減災チーム
E 水谷彰良
H 柴田翔平
H 高安 仁
チヤール奏楽
G 出口宗磨 E 福山英男
D 鈴木幹也 L 加藤博之
▽3年間皆勤賞
A 丹羽希碩 B 河田 陽
B 野田瑛一 H 長瀬弘明
C 荒川颯哉 I 伊藤大世
C 上地佳祐 L 磯村俊介
C 澤田志門 N 佐名拓磨
C 竹村春輝 C 前田治樹
C 村田優人 D 泉 高晟
D 岡田拓也 D 小塚聖矢
D 堂下 恒 D 中西 陸
D 皆川和輝 E 市野雅大
E 伊藤颯基 F 樺木瑛人
F 伊藤優牙 F 界 直希
F 横井勇人 G 横山幸汰
G 杉浦祐平 H 大柳竜一
H 野川陽介 I 堀田大介
I 宝田悠希 J 河野涼哉
I 林 敬祐 K 立松丈豊
I 山田優馬 J 堀田大介
J 櫻庭由宣 J 稲田裕介
K 小原征也 K 加藤悠人
K 磯村俊介 L 小高悠大
L 磯村俊介 L 小高悠大
L 小出紘平 L 小堀祥平
L 高橋良汰 L 堀田泰斗
M 小崎優輝 M 柴田俊英
M 鈴木大介 M 中谷太洋
M 宮川 翔 M 山城 聖
M 岡村祐哉 N 加藤 亮
N 佐名拓磨 N 須田峻太
N 山口裕也 N 須田峻太
N 山田京介 N 山岸大晟
▽3年間精勤賞
A 渥美慶太 A 大橋有斗
A 小川 巧 A 川合進之介
A 神田匡志 A 瀬沼 駿
A 玉川広知 A 西尾光峰
A 本多正尚 A 山田祐太
B 家田 翔 B 大久保佑哉
B 大島 怜 B 杉本蒼亮
B 杉山惣市郎 B 谷口和優

- 合歡垣晃弘 B 早川京佑
A 皆川尚輝 C 稲西輝紀
B 岡部恭祐 C 加藤裕真
C 佐藤雅之 C 佐々木 駿
C 工藤匡紀 C 澤田龍生
C 原田航平 C 日野祐哉
D 河合諒介 D 城所一希
D 向 学 D 小坂 潤
D 仙田健真 D 田中大雄
D 中尾優作 D 野村 奎
D 松崎 準 D 水野翔太
E 石川智理 E 佐野 匠
E 祖父江 峻 E 水谷彰良
E 山田晃平 F 近藤竜乃介
F 中村圭志 G 池田直弥
G 岩見 嶺 G 大岸宗優
G 加藤温輝 G 平井寿希
G 伊藤克明 H 伊藤颯汰
H 伊藤克明 H 伊藤颯汰
H 藤垣勇利 H 氏家雄斗
H 黒澤真光路 H 木下 歩
H 黒澤真光路 H 澤田 健
H 鷹見海里 H 濱田涼太
H 脇本泰成 I 加藤 葵
I 多田聖司 I 三鬼駿平
J 青島 遼 J 伊藤靖敏
J 河野涼哉 J 久保田清順
J 野野一 J 加藤 太
J 森 俊介 K 加藤 太
J 岩 泰成 K 西浦透真
K 松下直樹 L 犬飼裕翔
L 岩瀬訓之 L 倉橋克仁
L 鶴田宙也 L 中島 哲
L 野原直樹 L 彦坂拓哉
M 大石哲也 M 影山 駿
M 川崎星那 M 木村裕詞
M 小山碧登 M 斉藤 慶
M 石田 遼 N 内山雄俊
N 川上康熙 N 高浜健志

- 学業成績優秀賞
A 横井崇人 B 上林良伍
C 西 裕章 D 竹中健二
E 東 祐輔 F 高野蓮仁
▽学習努力賞
A 齊藤仁輝 A 鬼頭優輝
B 長屋孝優 B 小野弘輝
B 高井幹也 C 大島康裕
C 松浦玄竜 D 錢 健一
D 鹿島健士朗 E 橋本一輝
F 林 扶 F 小南雄暉
▽3年間皆勤賞
A 石黒真斗 A 黒田琉成
A 齊藤仁輝 A 森田 実
A 大橋歩夢 B 小野弘輝
B 上林良伍 B 佐藤史弥
B 土岐悠祐 C 三浦尚哉
B 横井郁哉 C 荒尾智浩
C 加藤幹都 C 橋本遥平
C 松本修明 D 岩下直暉
D 野田航輝 D 福嶋大裕
D 清水建志 E 鈴木康祐
E 平田大貴 E 廣比祐貴
E 三鴨裕也 F 青木智紀
F 千田晃敬 F 高野連仁
F 田辺 凌 F 高野連仁
▽3年間精勤賞
A 岡田康暉 A 倉知昂平
A 中野隼輔 A 浜本 哲
A 安井幹薫 B 梅村 卓
B 大井陽賀 B 大西一颯
B 小出基司 B 小島 豪
B 杉本憲哉 B 中村俊太朗
B 長屋孝優 B 半田敬祐
B 松井泰輝 B 松本惇希
B 大島康裕 B 小川拓海
C 尾木貴允 C 小川拓海
C 小泉一颯 C 楓 駿一
C 遠矢 翼 C 高井幹也
C 中西雅哉 C 西 裕章
C 水井悠都 C 溝際星七
C 山田敬介 D 樺木帝央
D 伊藤大心 D 今泉 輝
D 大井遥司郎 D 小川千暉
D 尾寄貴洗 D 加藤陽道
D 竹中健二 D 松谷哉汰
D 望月仁人 E 阿部聖仁
E 一色正太郎 E 鹿島健士朗
E 久野倫太郎 E 小林大慶
E 田中佑汰 E 三浦祐志
E 松本浩暉 E 中村聡志
F 鼎 凌太郎 F 萱野颯斗
F 久保田登万 F 小林伸大朗
F 小南雄暉 F 齋藤壯人
F 塩澤佑弥 F 田中大登
F 林 扶 F 山田雅浩
▽課外活動奨励賞
剣道部
A 齊藤仁輝 D 松浦玄竜

- 硬式テニス部
A 浜本 哲 A 森田 実
B 小川弘暉 B 小野弘輝
B 小川千暉 F 高田順平
F 森島康太
ゴルフ部
A 奥村礼惟 C 荒尾智浩
B サッカー部
B 三浦尚哉
柔道部
A 下川勝己
水泳部
A 玉木悠太郎 C 尾木貴允
C 平野純基 D 遠松亮吾
E 岸本 真 F 二宮 旭
卓球部
F 渡邊泰理
軟式野球部
C 西 裕章 F 青木智紀
バスケットボール部
B 渡辺淳太 F 小南雄暉
B アドミントン部
A 岡田康暉 E 鹿島健士朗
A パレーボール部
A 安井幹薫
ラグビー部
C 鈴木開登
陸上競技部
A 戸田至映
自転車競技部
C 水井悠都
囲碁将棋部
F 住田繁駿
英語部
D 大井遥司郎
Ookecストラ部
D 亀井涼平
自然科学部
F 自然科裕哉
写真部
E 丹羽裕介
吹奏楽部
D 谷口 颯
生物部
F 林 扶
文学部
A 石黒真斗 A 富田孝太郎
F 櫻井佑馬
減災チーム
E 中山皓介



※掲載した生徒は1月末までのものです。卒業式当日の式次第と異なる場合があります。

「国際化社会の担い手に」



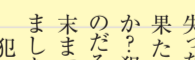
敬愛同窓会 会長 安井俊夫

ご卒業おめでとう。卒業式に臨み皆さんは、中学卒業生は中学生なりの高校卒業生は高専生としての自覚の下に、自らの将来について考えておられることでしょう。そうした中で、私が卒業生の皆さんにぜひ考えてもらいたいと期待し、お願いしたいことは、国際化社会への担い手のことでもあります。

君達も知る通り、現在は、社会、経済を中心として、人も物も情報も国境を越えた交流が加速度的に進みつつあります。同時に、我が国では、少子高齢化と人口減少が急速に進行しています。この二つの難関を乗り越え安定した将来の国民生活を確保していくためには、社会を担う若い人の叡智と努力が不可欠であります。

だれの罪でも、あなたがたが赦せば、その罪は赦される。だれの罪でも、あなたがたが赦さなければ、赦されないまま残る。ヨハネによる福音書20章23節。数学科I先生に勧められて、「アメージング・ジャーニー 神の小屋より」という映画を観ました。キリスト教の中心的なメッセージを見事に描いた映画でした。

聖句にひろう



宗教部長 大藪博康

愛する娘が誘拐され殺されてしまった父親が、癒されない心をかかえながらつらい日々を生きていた。そこに差出人不明の手紙が届く。「あの小屋に來なさい」。小屋とは娘が殺された現場。何者かが悪意に満ちたいたずらをしたのか。犯人が何か企んでいるのか。怒り、不安、やりきれない気持ちを抱えながら、父親はあの小屋に向かう。そこ

2017年度 名古屋高校SGHの取り組み

図書情報部長 杉原辰雄

2016年度にSGHアソシエイト校に選定された本校では、9月の愛校祭をSGHの探求活動の成果報告の場と定め、5〜6名からなる各グループによるプレゼンテーションを行いました。2017年度は昨年度の活動を継承し、さらに発展させ、成果発表のコンペティションを行いました。このコンペティションは本校の創立者F.C.クライン博士の名にちなんで、クラインズカップと命名されました。クラインズカップに出場するチームは、本校の研究テーマに沿って、自らの調査探求活動を行います。最終的な研究成果は年度

さらに今年度のSGHの活動はクラインズカップのみならず、近県で行われるSGH関連のイベントにも積極的に参加し、名城大学が主催するMeijo Global Festaでは優秀賞を頂きました。とりわけSGH活動の目玉ともいえるのが、年度末に開催されるSGHの全国大会SGH甲子園です。今年度はポスターセッション部門への参加も予定されています。狭き門でもあるSGH甲子園のプレゼンテーション部門には昨年度に引き続き、2年連続の出場が決定しています。このようなSGHの活動は着実に裾野を広げ、今年度は模擬国連全日本大会への高1A組葛山欧亮、松本康紀ペアと高1A組中村大喜、高1B組熱田和輝ペアの計4名の参加が実現するなど、本校の学びは新しい時代に向



※1「模擬国連全日本大会」は国連会議のシミュレーションを通して現代世界の諸問題を学ぶことを目的としています。全国から選抜された参加者は各国大使に扮し、英語で実際の国連会議さながらの議論を行います。国内大会のさらに先には、ニューヨークの国連本部で開催される世界大会もあります。

部活動報告

運動部では、中学、高校テニス、高地上競技、水泳、馬術、自転車競技、文化部では、高校文学部、JRCが全国大会に出場した。

- 【中学テニス部】**
第45回全国中学生テニス選手権大会(8月) ※13年連続23回目出場
 - (団体戦) 1回戦敗退
 - (個人戦) 高田順平(3年)、宮地吾侑(2年)組
- 【愛知県中学生テニス大会】**
 - (団体戦) 優勝
 - (個人戦) シングルス 優勝 宮地吾侑(中2)
- 【東海地区中学生新人テニス大会(団体兼個人戦)】**
 - ダブルス 第3位 宮地吾侑(中2)
 - シングルス 第3位 宮地吾侑(中2)
- 【全国選抜中学生テニス大会(団体兼個人戦)】**
 - 団体戦 第3位
 - 全国選抜大会への出場が決定
- 【高校テニス部】**
 - 第10回全国高等学校総合体育大会(8月) (団体戦) ベスト16
 - シングルス ベスト32 石博元晴(5年)
 - ダブルス ベスト32 高羽 進(5年) 三上和馬(6年)、鈴木悠太(5年)組
- 【愛知県高等学校新人体育大会(9月)】**
 - (団体戦) 優勝(3年連続26回目)
 - (個人戦) シングルス 準優勝 石博元晴(5年)
 - ダブルス 第3位 鈴木悠太(5年) 石博元晴(5年)、高羽 進(5年)組
- 【愛知東海地区大会(団体戦)】**
 - 第3位(岐阜県) 本校から5年生の石博元晴(5年)が活躍
- 【全国選抜東海地区大会(団体戦)】**
 - 第3位(岐阜県) 本校から5年生の石博元晴(5年)が活躍
- 【優待】**
 - 優待(2年ぶり11回目)の東海制覇
 - 春休みの第40回全国選抜高校テニス大会への25年連続30日目の出場が決定
- 【JOCジュニアオリンピックカップ】**
 - 第38回全日本ジュニア選抜室内テニス選手権大会(11月)
 - 第4位 高羽 進(5年)
- 【高校陸上競技部】**
 - 全国高等学校総合体育大会陸上競技対校選手権(8月)
 - 4x100mリレー 予選敗退
 - 伊藤彰海(5年)、飯田英夫(6年)、城戸宏規(6年)、岩堀剛己(4年)
 - 110mハードル 予選敗退 岩堀剛己(4年)
 - 4x100mリレー 予選敗退
 - 伊藤彰海(5年)、岩堀剛己(4年)、加藤敦詞(5年)、富田泰理(4年)
- 【高校ラグビー部】**
 - 第71回愛知県ラグビーフットボール競技大会(6月)
 - 第4位
 - 第77回全国高等学校ラグビーフットボール大会愛知県大会(11月)
 - 第3位
 - 第10回全国高等学校合同チームラグビーフットボール大会(8月)
 - (参加選手) 渡邊元樹(5年)、松原大貴(5年)
 - 愛知東海地区大会(愛知県選抜10月)
 - 第3位 本校からは6年生の三浦晋由、橋本和磨(谷川司君が欠場)
 - 全国高等学校ラグビーフットボール大会愛知県大会(11月)
 - 第3位
- 【高校サッカー部】**
 - 第71回愛知県高等学校総合体育大会サッカー競技(5月)
 - ベスト8
 - 全国高校サッカー選手権大会愛知県大会(11月)
 - ベスト8
 - 全国高等学校総合体育大会(8月)
 - (参加選手) 15名
 - 200m自由形 13位
 - 鶴田宙也(6年)
- 【自転車競技部】**
 - 愛知東海地区大会(愛知県選抜)
 - 自転車競技(11月)
 - 優勝 小林 佑一朗(5年) 全国大会出場
 - 準優勝 原田玲於(5年) 全国大会出場
- 【馬術部】**
 - 第28回全日本高等学校馬術選手権大会(8月)
 - (参加選手) 岡田誠(6年)
 - (中高文学部)
 - 第7回 富士正晴全国高等学校文芸誌賞(文芸誌甲子園)(3月)
 - 優秀賞 『文学部』第8号
 - 全国高校生文芸賞
 - 奨励賞(祖父との日々)
 - 横山栄介(6年)
 - 第20回 高校生全国俳句選手権大会(俳句甲子園)(8月)
 - 4年連続全国大会出場
 - (参加選手) 瀬戸雅裕(6年)、北口直歌(6年)、横山栄介(6年)、小林空(4年)
 - 愛知東海地区大会(愛知県選抜)
 - 俳句部門 第二席 牛田大貴(5年)
- 【文芸部】**
 - 第三席 細井淳平(5年)
 - 文芸部誌部門
 - 第一席 『文学部』
 - 俳句部門は2年連続入賞、文芸部誌部門は文学部誌創刊以来9年連続入賞、4回日の第一席となります。
 - 来夏の全国高等学校総合文化祭への出場が決定。
- 【図書振興財団主催 図書館を使った調べる学習コンクール 名古屋地方大会(12月)】**
 - 優秀賞 名古屋は古典文学で中心に立っていたのか?
 - 富田孝太郎(3年)、石黒真斗(3年)
 - 櫻井拓馬(3年) 全国コンクールへ
 - 図書振興財団主催「第21回 図書館を使った調べる学習コンクール」にて
 - 優秀賞(高学年文化推進賞) 小林空(4年)
 - 第32回全国高等学校文芸コンクール(12月)
 - 短歌部門
 - 優良賞 北口直歌(6年)
 - 俳句部門
 - 入選 新家功大(5年)
 - 入選 細井淳平(5年)
 - 文芸部誌部門
 - 奨励賞(文学部)
 - 本コンクールは、高校生対象の文芸コンクールとしては最大のものであり、北口君は2年連続の受賞、文学部としての受賞は4年連続となりました。
- 【JRC部】**
 - 青少年赤十字代表団海外派遣 日本赤十字社愛知県支部代表(8月)
 - (参加者) 村瀬竜輝(5年)
- 【SGH報告】**
 - 中高選抜チーム
 - 高文選ボランティア専門部成果発表会(県大会12月)
 - 最優秀賞
 - メンバー 松岡謙心(4年)、小林空(4年)、葛山欧亮(4年)、岩井創(4年)、界直希(6年)
 - 夏の高校生全国総合文化祭「信州総文」(高体連のインターハイに相当)出場が決定
 - (SGH)
 - 全日本高校模擬国連大会(11月) 出場
 - 参加者
 - 葛山欧亮(4年)、松本康紀(4年)ペアと中村大喜(4年)、熱田和輝(4年)ペア

「まきば」へ献金を届けてきました。

宗教部長 大藪博康



まきば訪問礼拝の様子

12月19日(火)の午後、聖歌隊のメンバー4名、オーケストラ部のメンバー7名、中学生徒会1名、教員5名でバスにのり、日進市の老人ホーム「まきば」へ行きました。今年もクリスマス献金を届け、施設の方と礼拝を行いました。短い時間でしたが交流することができました。

今年から、施設長の鈴木さんが後任にその仕事を引き継がれ、小田部正一氏が施設長になりました。小田部氏は長年、岐阜の教会で牧師をされてきた方なので、「まきば」で生活を安心してお任せできる方であると信頼されていることと思います。小田部施設長が交流の時をなごやかにすすめてくださり、生徒たちも喜んでいました。礼拝の中で献金をささげ、さらに生徒からのクリスマスカードもお渡ししました。

またオーケストラ部が今年もクリスマスの讃美歌を演奏してくれました。ゆったりとした演奏で心とむ思いがしました。

2018年も「まきば」の方々の日々の生活が神様によって支えられ、幸福に満ちたものでありますように祈ります。

高校文化祭・体育祭を終えて

高校生徒会顧問 市川圭太

第66回愛校祭(文化祭)は9月22日(金)23日(土)に開催され、近隣の園児をはじめ、親子連れや保護者、大勢の中高生に会場していただきました。テーマを130周年の「萌芽」として、屋外ステージの背景は芽吹きをイメージする絵で飾られ、ダンスパフォーマンスや太鼓の演奏で大いに盛り上がりました。

生徒会企画の130周年記念ソニーブルーは曇天と風の影響でうまく上がりませんでした。生徒会と敬愛同窓会が連携して開いた討論会「ザ・憲法」は好評でした。敬愛ホールではSGH発表や講演会、俳句甲子園エキシビジョンマッチが行われました。部活動企画やバンド演奏も充実しており、クラス企画も学術性や社会性の高い素晴らしい企画が多くありました。模擬店もたいへん賑わい、利益から多額の寄付をすることができました。

高校体育祭は10月27日(金)に行われました。恒例のリレー競技や棒奪い、騎馬戦は白熱した闘いとなりました。新しく挑戦した三輪車リレーは、体の大きな生徒が小さな三輪車を必死でこぎ回す姿が見られたものの、競技時間の予測が甘く途中で中止となりました。昨年からのルール変更で臨んだ四方向綱引きも、ルールがうまく機能せず、じゃんけんでの勝負になつたり、ルール変更を余儀なくされたりしました。今回の失敗から得られた教訓や反省点をぜひとも今後に生かしてほしいと思います。

文化祭・体育祭を温かく見守り、支えて下さった皆様へ感謝申し上げます。

中学校愛校祭を振り返って

中学生徒会顧問 福岡 翔

今年度の文化祭は、創立130周年の節目の年であり、新たな出発を芽生えに例えてつけられた「萌芽」というテーマのもと、創立130周年の文化祭をできる限り盛り上げたいという生徒会メンバーの強い思いから、様々な企画が作られました。

まず、中学生が中心となって入場門の作製に挑戦しました。入場門は萌芽というテーマに沿って、屋根に緑に塗った空を銜をつなげて作った竹を用いるようデザインしました。中学生の作業であるがゆえ、精度には限界がありました。が、中1〜中3の生徒が練って考えたデザインと設計は良かったという評価もいただけました。また、生徒会企画「演芸グランプリ」も盛り上がり、演劇、ビッグアートや学年ごとの企画も、生徒たちが前向きに取り組む準備時間を有効に使って、完成度の高いものができていたように思います。いずれも、生徒会、文化委員、有志、その

他の生徒たちが多大な時間と労力を費やして力を合わせて完成させることができたことが良かったと思います。体育祭は雨天の中、決行することになり、開始直後の中断、綱引きの中止などがあつたものの、無事終えることができました。

音楽祭は、合唱コンクール形式となつて2年目で、今年度は市民会館のフォレストホールで行われましたが、昨年の中学3年生の素晴らしい発表を引き継いで、しっかり練習し、当日も大会場で堂々と発表してくれました。

次年度もさらに有意義な愛校祭にできればよいと思います。



文化祭OBの「矢場とん」社長と座談会の後で記念撮影

卒業生の肖像 「伝えたいこと」感謝すること

新国立劇場バレエ団 太田寛仁さん

高校3年の夏から休学し、ワシントンD.C.とサンフランシスコで2年間のバレエ留学を終え、バレエ団オーディションが上手くいかず日本に帰国。復学か通信制の学校への転校を迷っていたところ、先生方の力強い後押しにより名古屋学院に復学。高校に通いながらオーディションを受け続けることにしましたが、あと1年でこのバレエ団にも入ることができなければならぬと、辞めて大学受験をする覚悟でした。

卒業することだけが目的だった高校生活は、温かく迎えてくれた先生方と2つ下のクラスメイト達のお陰で素晴らしいものになりました。

大学受験に燃える仲間と共に生活することは、オーディション活動に良い影響を与えてくれました。目標は違ったけれども、一緒に戦っていると感銘させてくれたことが大きな力となりました。

また、自分を応援し、支えてくれた友人に本気で応えたいと思うことが増えました。沢山の出会いに恵まれ、多くの人に沢山の世話になったこと、そういった人達の存在をそれまでも感じ、改めて考えるようになりました。無事に卒業し、オーディションに合格できたのも、相談に



新国立劇場バレエ団 太田寛仁さん

大学入試センター試験を終えて

進路指導部長 立石陽一

今年も一月三日、四日の二日間にわたって大学入試センター試験が行われた。前日の二日にはチャペルで事前指導が行われ、学校長から激励の言葉を頂いた。今年度本校生徒の受験会場は名東高校、千種高校、菊里高校、愛知淑徳大学、名古屋工業大学と分散したため、試験当日は、学年会の教員も各試験会場へ分かれ、生徒ひとりひとりに激励の言葉をかけた。今年のセンター試験は、晴天に恵まれ、絶好のコンディションで迎えることができたのではないだろうか。

さてこれから生徒諸君は私大入試、国立大学二次試験を迎える。大学進学を志してから努力を重ね、いよいよ勝負の日を目前にして、もしかしたら不安な気持ちを抱えている人もいるかもしれない。君たちは今、試験の中にある。そして、これからの人生は試験の連続である。



センター試験当日の様子

成人礼拝について 宗教部長 大藪博康

2018年1月4日(木)午後2時より、2015年度卒業生・成人記念礼拝が行われました。500名ほどの同窓生・保護者の方々と共に礼拝をなさることができました。新年があけて早々ですが、大学の授業がはじまることを考え、今回も4日に行いました。

快晴の下、2時前にチャペル前に集まり始めた同窓生が、友達との再会を喜び、あやう姿があり、話を花を咲かせていました。礼拝が始まると懐かしいような照れくさいような感覚で、雰囲気がつくられていき、ひさしぶりの讃美歌や校歌を歌い、主の祈りを唱えてくれました。母校の懐かしい思い出をめぐられていくことを願っています。

礼拝のメッセージでは小林光学院長が「希望を持つ秘訣」と題して語っていただきました。私たちに様々な希望がありますが、神様のみこころ、神様のご計画があるところに希望があると語ってくださいました。人生には喜びも悲しみもありますが、すべては神様のご計画の下にあることを信じる生き方ができればと思います。



成人礼拝の様子

第41回 新春かるた会開催

図書情報部長 杉原辰雄

読み人が上の句の三文字目、下は四文字目を言い継ぐという形式で、まさにその利那、取り札が弾かれる。「こういふ世界があるんだと、カルタ会を初めて目にする中1生及び、高1生は、そこで繰り広げられるクラス代表の熱き戦いに圧倒されるでしょう。競技者たちの熱は観覧者にも伝わり、柔剣道場の空気が一つになつていく。その様子を我々教員は、はたで見ているのですが、本校の教員として誇らしい瞬間の一つでもあります。

今年度の決勝は、高校1位の5年D組ベアと中学1位の3年C組ベアの対決となりました。結果は高校生ベアが見事勝利しました。惜しくも、準優勝となった



結果

優勝	5年D組	金田龍輝・杉山頭大朗
準優勝	3年C組	木村璃碧希・則竹勇輝
三位	4年B組	秋田昇輝・岸井健留
	1年A組	永合祥弥・西尾幸樹

名古屋学院人物列伝 20

小栗七生(おぐりななほ) 1936年(昭和11年)〜 1955年(昭和30年)卒
名古屋トヨペット(株)会長、名古屋学院敬愛同窓会前会長



第十九代校長 秋重 泉

1955年(昭和30年)、小栗七生さんは名古屋高等学校を卒業、立教大学経済学部経営学科へ進学した。昭和30年は第二次世界大戦後10年を経たときであった。米軍機の空襲による焦土から日本は復興に向けて立ち上がるうとしていた。私たちの学校も例外ではなく、受難の時代から飛躍しようとしていた。

進学実績では卒業生342人のうち、名古屋大学へ29名、東大、京大、一橋の難関国立大学をはじめ、早稲田、慶応、立教、同志社などの有力私大に大量の合格者を出し、進学校としての名声を確立したのがこの頃のことであった。進学実績だけではなかった。

1954年(昭和29年)、金城学院に長久寺校地を譲渡し、米国キリスト教会の援助で購入した3万坪という広大な幸校地に新校舎の建築が始まった。4月に高校3年生が焼けた古い木造の「大幸分教場」に移り、9月、高校新校舎の完成と同時に高校全体の授業が幸校地で始まった。初めての鉄筋コンクリートの校舎だ。小栗さんは半年ほどの間であつたが、大幸地(現砂田橋)の新校舎で学んだ一人だった。但し卒業式は長久寺の講堂で挙

された。長久寺校地での最後の卒業生でもあつた。現在は金城学院中学がある長久寺校地、ここで小栗さんは6年間キャッチャーとして野球に熱中していた。残念ながら甲子園大会に出場することはできなかったが、甲子園まで行ってグラウンドの土を集めてきたという伝説が残っている。当時の野球部員は小栗さんのお二人からのスライカの差入れがことのほか嬉しかったことを今でも憶えている。

小栗さんは志を立て、復興のためだにかなにある東京で大学生活を送ることになった。また戦後においては残る池袋周辺、立教大学が小栗さんの次の青春の舞台となった。前後してプロ野球界のスーパースター長嶋茂雄も立教に在学していたので交流があつたかもしれない。1959年(昭和34年)に立教大学を卒業した後の小栗さんの経歴は華々しい。愛知トヨタ自動車を経て1965年(昭和40年)に名古屋トヨペット入社。1980年(昭和55年)、名古屋トヨペット代表取締役専務、1986年(昭和61年)、代表取締役社長に就任。トヨタ自動車の発展を販売で支え続けた。その後、トヨペット以外にも両手では数えることができないほどの会社の役員に就任、2009年(平成21年)には会長に就任して現在に至る。本業のほ

か、トヨタ系自動車販売店の全国組織の理事長、日本自動車販売協会連合会・日本自動車連盟(JAF)の会長にも就任し日本の自動車産業の発展に寄与。小栗さんは母校に対する思いが強く、名古屋学院の評議員を経て、2002年(平成14年)、理事の一員として名古屋学院の経営を担うこととなった。また、同年第14代敬愛同窓会会長に就任。筆者は校長在職時、現在の新校舎建築の責任者であり、建設のための募金を同窓生にお願いすることになった。この募金目標達成のために、特に小栗会長の多大な貢献があり、たいへんお世話になったことを記しておきたい。2016年(平成28年)に同窓会長を退任されたが、在任期間は13年9か月に及んだ。木村克己初代会長(38年間)、旧制名古屋中学校校長、丹羽兵助第6代会長(16年間)、衆議院議員(国務大臣)に次ぐ歴代3位の長さであり、その人望の高さがうかがわれる。

小栗さんは名古屋トヨペット会長として現在もお元気で采配を振られている。学校にとっても3万人を超える卒業生の中で母校に多大な貢献をなした卒業生の一人として特に記しておくべき存在である。

平成二十九年愛知県私立学校 経常費補助金について

昨年十一月、愛知県より平成二十九年の私立学校経常費補助金の内示がありました。この補助金は、保護者負担の軽減教育条件の維持向上を目的とし、私立学校の人件費及び教育に必要な経常的経費に対し補助されるもので、本学院におきましても大きな効果をもたらしております。

本年度は七億一九五〇万三〇〇〇円の経常費補助金が交付されることになりました。生徒一人当たり換算いたしますと、高校は三五万七〇〇〇円、中学校は二八万八〇〇〇円です。

また、保護者に対する直接補助である入学納付金補助金は一九〇三万五〇〇〇円が交付され、授業料軽減補助金は二月分まで四〇二万七五〇〇円が交付されました。残りについては追加交付される予定です。

本学院としましては、県の財政事情が厳しい中、このように補助金によって教育活動が支えられていることを十分認識しつつ、今後も経費の削減と効率的運用に努めてまいります。

保護者の皆様方におかれましても、一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。